

大阪医科大学学報

第78号 平成20年11月
(インターネット版)



烏瓜の実

◆目

キャリア形成支援センター	2
入学定員について・さわらぎキャンパスグラウンド改修	3
規程関係	4
受賞・表彰等について	5
大学院整備重点化経費選定結果	6
研究機構	7
寄付金報告	8
日本赤十字社への寄付報告・西水会寄付金報告	9
平成21年度入学試験・研修結果報告	10
中山国際医学医療交流センター	15
看護部	24
市民公開講座・学内行事	27

◆次

学内行事	28
ゴルフ部医体3連覇報告・大阪国際音楽コンクール第1位	31
看護専門学校関係	32
行事日程	34
医療安全対策室関係	35
感染対策室関係・病院関係事項	37
主要会議報告	38
保健管理室からのお知らせ	40
歴史資料館	43
俳句	44
法人公式ホームページのリニューアル	45

「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」の運営における キャリア形成支援センターの開設及び大学間協定書締結の調印式について

平成20年度文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に本学より申請した「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」が採択されたことに伴い、本年10月1月付で附属病院内にキャリア形成支援センター（近藤敬一郎センター長兼コーディネーターを任命）を設立し、本格的な取組みをスタートさせました。

本プロジェクトは、連携大学がそれぞれの得意分野を相互補完・協力することにより若手医師のキャリア形成を支援して地域に高度な臨床医師を育成することを目的としています。当センターでは地域医療に密着した質の高い専門医の育成やサブスペシャリティーの資格取得および若手医療人のキャリアを支援するプロジェクトを計画しています。ここにご報告申し上げますと共に、皆様の一層のご協力をお願いいたします。



近藤敬一郎センター長



植木實学長



協定書

平成20年10月2日（木）ホテルグランヴィア大阪において、関西医科大学の山下敏夫学長、兵庫医科大学の波田壽一学長、近畿大学・医学部の塩崎均医学部長と本学の植木實学長をはじめ関係者各位の出席をいただき、「近畿圏循環型選択コース」にて連携する大学間協定書の調印式が行われました。



近畿圏循環型選択コースの協定書調印式において
左より近畿大学医学部 塩崎均医学部長、関西医科大学 山下敏夫学長、
大阪医科大学 植木實学長、兵庫医科大学 波田壽一学長

このプロジェクトの特徴は、近畿圏国公私立大学8校（関西医科大学、兵庫医科大学、近畿大学、京都大学、大阪大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学、本学）の連携により選択肢が多彩で豊富な研修コースを設計しているところです。各大学、関連医療機関の地域に密着した連携体制やキャリア形成支援センターのきめ細かなサポートにより、医療人の育成に貢献したいと考えています。

平成20年10月

平成21年度医学部入学定員について

本学では、平成21年度の入学定員10名増の認可申請中です。
一般入試（前期）5名、一般入試（後期）5名の定員増を予定しております。

☪ 定員増後の募集人員（予定）

医学部医学科 110名	一般入試（前期）	一般入試（後期）	センター利用入試
	90名	15名	5名

※確定は12月下旬となります。確定次第、本学ホームページ等を通じてお知らせ致します。

さわらぎキャンパスのグラウンドが改修されました！

念願のさわらぎキャンパス・グラウンドの改修が本年8月末に終了いたしました。当グラウンドは粘土層であったため以前から水はけが悪く、特に雨の後はなかなか水溜りが引きませんでした。そのためクラブ活動、学園祭やオープンマーケット開催などに支障をきたし、学生諸君や市民の方々にご迷惑をかけてきました。以前の学報で紹介しましたように、テニスコートの整備も今春完了しており、一応これでさわらぎキャンパスの改修事業は完了したことになります。このグラウンド改修事業は、平成19年度の西日本医学部体育大会（西医体）の総合優勝を祝して法人および大学から学生諸君へのすばらしいプレゼントになりました。しかし残念ながら、本年度の西医体の成績は第17位とあまり芳しい成績ではなかったようです。成績はともかく学生諸君は夏休み中、思いきりクラブに旅行にとエンジョイしたことと思います。教育機構長としては以前に比べると教育環境も随分整備されてきましたので、後は「死ぬほど勉強して死んだ者はいない」と学生諸君にいつも言っておりますが、思いきり勉学にも頑張るよう期待しています。

教育機構長 大槻 勝紀



改修後

規程関係

規程制定

次の規程が制定されました

- 大阪医科大学特定生物安全管理委員会規程 (平成20年4月1日制定)
- 大阪医科大学附属病院緊急自動車運行規程 (平成20年4月1日制定)
- 大阪医科大学附属病院緊急自動車運行要綱 (平成20年4月1日制定)
- 学校法人大阪医科大学新学部設置準備委員会規程 (平成20年9月9日制定)
- 大阪医科大学附属病院キャリア形成支援センター組織運営規程 (平成20年9月18日制定)
- 学校法人大阪医科大学特別職務担当教員規程 (平成20年10月1日制定)
- 大阪医科大学大学院医学研究科履修細則 (平成21年4月1日制定)
- 大阪医科大学大学院学位規程施行細則 (平成21年4月1日制定)
- 大阪医科大学大学院医学研究科における在学年限の特例に関する内規 (平成21年4月1日制定)

規程改正

次の規程が改正されました

- 大阪医科大学遺伝子組換え生物等の第二種使用等に関する安全管理規程 (平成20年4月1日改正)
- 大阪医科大学微生物等使用実験安全管理規程 (平成20年4月1日改正)
- 大阪医科大学附属病院中央検査部規程 (平成20年8月1日改正)
- 大阪医科大学附属病院検体検査管理委員会規程 (平成20年8月1日改正)
- 大阪医科大学附属病院化学療法センターレジメン審査委員会細則 (平成20年9月1日改正)
- 大阪医科大学附属病院医療機器安全管理委員会規程 (平成20年9月1日改正)
- 大阪医科大学図書館長選出に関する規定 (平成20年10月15日改正)
- 大阪医科大学大学院学位規程 (平成21年4月1日改正)
- 大阪医科大学特別協力研究員に関する内規 (平成21年4月1日改正)

※上記各規程については、Online規程集（学内限定）にてご確認下さい。

なお、都合上Online規程集の更新が遅れる場合がありますのでご了承下さい。

受賞等について

Society of Neurosurgical Anesthesia and Critical Care

36TH ANNUAL MEETING

Resident Travel Awards

麻酔科学教室 宮崎信一郎先生（大学院生）

2008年10月 アメリカ合衆国 フロリダ州 オーランドで開催されました Society of Neurosurgical Anesthesia and Critical Care 36TH ANNUAL MEETINGにおいて、Society of Neurosurgical Anesthesia and Critical Care 36TH ANNUAL MEETING Resident Travel Awards と賞金として\$1,000を受賞されました。

演題：『Predictors of Postoperative Delirium and Stroke after Off-pump Coronary Artery Bypass Surgery』



社団法人大阪府雇用開発協会からの表彰

社団法人大阪府雇用開発協会から、永年勤続障害者として解剖学教室の伊藤裕子講師が表彰を受けました。また、併せて障害者雇用功労事業所として学校法人大阪医科大学が表彰を受けました。10月14日に大阪国際交流センターで行われた「高年齢者・障害者フェスタ2008」で表彰式が行なわれ、表彰状と記念品が授与されました。本学における伊藤講師の職務を十二分に遂行する姿勢と功績が評価されたものです。本学では伊藤講師を良き先人として、今後とも障害者の雇用に努めていきます。



受賞・表彰等について 大学院整備重点化経費選定結果

受賞等について

日本検査血液学会学術賞受賞

中央検査部 棚田 浩子 臨床検査技師

平成20年7月26日 平成20年度日本検査血液学会学術賞を受賞され、第9回学術集會にて表彰されました。

論文名

『Propidium Iodide染色細菌を貪食物とした新しい顆粒球貪食能測定法』



平成20年度大学院整備重点化経費（研究科特別経費）選定結果について

平成20年度分について、大学院委員会及び医学研究科委員会での審議の結果、以下のテーマを採択し補助額を決定いたしました。

採択テーマ	申請者	申請額 (千円)	補助額 (千円)
内分泌療法不応性マウス骨転移モデルを用いた、内分泌療法不応性機序獲得のメカニズム解明とAMACR-si-RNAによる治療	泌尿器科学 准教授 東 治人	3,500	3,500
脳腫瘍幹細胞におけるポルフィリン代謝解析	脳神経外科学 教授 黒岩 敏彦	5,000	5,000

大学院委員会委員長 南 敏明
医学研究科科長 植木 實

研究助成金等について

■第40回（2008年度）内藤記念科学奨励金（研究助成）[財団法人内藤記念科学振興財団]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
心筋カルシウムハンドリングタンパク質のO-結合型N-アセチルグルコサミン（O型糖鎖）による制御と心機能への影響	薬理学・教授・朝日 通雄	300万円

○研究協力課から処理（申請・機関承認等）した公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

第2回 研究機構OMC学術フロンティア研究奨励制度 奨励賞授与式

平成20年7月23日に学長室に於いて第2回研究機構OMC学術フロンティア研究奨励制度奨励賞授与式が開催されました。



①受賞者：東 治人 准教授（泌尿器科学教室）

研究課題：蛍光発光によるビジュアル前立腺癌転移モデルの作成と、TGF- β のシグナル伝達抑制因子“Smad6, Smad7”遺伝子導入による、腫瘍の増殖、および転移抑制効果の検討

奨励金：350万円（平成20年度執行日から平成21年3月31日まで）



②受賞者：高井真司 准教授（薬理学教室）

研究課題：生活習慣病におけるキマーゼの病態生理学的役割の解明

奨励金：150万円（平成20年度執行日から平成21年3月31日まで）

7名（グループ）、8研究課題の中から、上記2名が平成20年度の奨励賞を授与されました。

学内の英知を結集した共同研究を立ち上げて、より高度の研究成果を得ることを目的に『隣の研究室の研究内容を学ぼう』をスローガンに「研究機構シンポジウム」を平成17年より行ない、その中で、少しずつ複数教室による共同研究が発足している状況にあります。今回の奨励賞を授与された2件の研究テーマはそうした流れにも添って発展してきたものであり、本学を代表する研究に成長しています。COE等（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）に応募するに足る研究の育成を目的にしている本研究奨励制度が更にその成果を発揮する為にも採択された課題に関して、助成金の授与ばかりでなく、他の学内研究者の意見も反映させながら研究機構で育ててゆくという姿勢を堅持したいと思っています。

OMC学術フロンティア研究奨励制度委員会 委員長 谷川允彦

*平成21年度のOMC学術フロンティア研究奨励制度の公募は1月中旬に予定しています。

お問い合わせ先：研究機構事務室（内線3401、E-Mail: crlkikou@art.osaka-med.ac.jp）

寄付金報告

■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成20年7月12日から10月3日までの間の寄付金入金件数は、32件、金額は16,625,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成20年10月3日までの寄付金入金件数は264件、金額は98,105,000円です。

(順不同・敬称略)

学校法人玉手山学園 仁泉会奈良県支部 都市クリエイト株式会社 有限会社すばる印刷
医療法人千寿会 仁泉会大阪市南支部 森田電気工業株式会社 株式会社ケーエスケー
仁泉会守口支部むらさき会 株式会社ホギメディカル 浅海電気株式会社 医療法人矢津内科
スエッツインフォメーションサービス株式会社 株式会社映像システム

岩神 俊平 宮武 邦夫 川崎 康寛 田中 秀紀 前田 環 瀧藤 宏 宇都宮 正

山田 勝彦 長谷川輝男 福井 浩 宮本 一 麻生 泰成 伊藤 晶文 植村 龍子

宇野 昭二

匿名3件

■ 大阪医科大学フレンズ会への入会状況について

<入会者>

平成20年7月12日から10月3日までの間の入会者数は、9名です。

ここに入会していただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成20年10月3日までの寄付金入金件数は236件、金額は5,102,000円です。

(順不同・敬称略)

中尾 基克 香川 満夫 荻野 一子 中濱 利枝 金山 敦子 竹内 淑恵 東山 智宣

廣川 恵子 佐浦 隆一

※フレンズ会ご入会についてのお問い合わせ

募金推進本部 072-683-1221 (内線2827) または 072-684-7243 (ダイヤルイン)

■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成20年7月12日から10月3日までの間の寄付金入金件数は、3件、金額は5,000,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成20年10月3日までの寄付金入金件数は25件、金額は57,500,000円です。

(順不同・敬称略)

足立 昌由 半井 一郎

匿名1件

■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

<寄付金申込者>

平成20年7月12日から10月3日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は300,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成20年10月3日までの寄付金入金件数は14件、金額は5,400,000円です。

(順不同・敬称略)

植木 實

ミャンマーサイクロン被害・四川省大地震への義援金について

本学のHPでもご報告致しましたとおり、ミャンマーサイクロン被害・四川省大地震への義援金募集につきましては個人・団体合わせて492,810円集まりました。この篤志は、両被災地の復興を祈念し、日本赤十字を通じて、ミャンマーサイクロン被害義援金および四川省大地震義援金に各々246,405円を送金致しました。

ここに日本赤十字より送られてきました受領証を掲載致します。



西水会寄付金報告

平成20年度、西水会食事会で実施いたしました募金の総額は、¥84,004でした。以下、領収書の通り寄付いたしましたのでご報告いたします。



平成21年度入学試験

—平成21年度入学試験について—

平成21年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校の入学試験の概要をお知らせ致します。

I 平成21年度 医学部医学科 一般（前期・後期）及びセンター試験利用入学試験 日程

■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
募集人員	85名	10名
出願期間	平成20年12月15日（月）～ 平成21年1月31日（土） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	平成20年12月15日（月）～ 平成21年3月4日（水） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	60,000円	60,000円
1次試験日	平成21年2月10日（火）	平成21年3月10日（火）
1次試験場	【大阪会場】 関西大学 千里山キャンパス第3学舎 【名古屋会場】 河合塾 名駅キャンパス16号館名古屋校 【広島会場】 広島県立 広島産業会館（西展示館）	【大阪会場】 河合塾大阪校 【福岡会場】 八重洲博多ビル
1次試験合格発表日	平成21年2月19日（木）午後4時	平成21年3月16日（月）午後4時
2次試験日	平成21年2月23日（月） ※1次試験合格者のみに実施	平成21年3月20日（金・祝） ※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成21年2月26日（木）午後1時	平成21年3月21日（土）午後1時
入学手続期間	平成21年2月27日（金）～ 平成21年3月4日（水） ※最終日の午後3時まで	平成21年3月23日（月）～ 平成21年3月26日（木） ※最終日の午後3時まで

■センター試験利用入学試験

募集人員	5名
出願期間	平成20年12月15日（月）～平成21年1月31日（土） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	32,000円
1次試験日	平成21年1月17日（土）・18日（日） （大学入試センター試験）
1次試験合格発表日	平成21年2月26日（木）午後1時
2次試験日	平成21年3月11日（水）※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成21年3月12日（木）午後1時
入学手続期間	平成21年3月13日（金）～平成21年3月19日（木） ※最終日の午後3時まで

共 通 事 項 (一般・センター)

1. 納 入 金

項目	初 年 度 納 入 金			2 年次以降 納入金 (年額)
	納期 第 1 期 (入学手続時)	第 2 期 (9 月 15 日)	第 3 期 (1 月 15 日)	
入 学 金	1,000,000			
授 業 料	640,000	620,000	620,000	1,880,000
実 習 料	120,000	120,000	105,000	345,000
施設拡充費	420,000	420,000	420,000	1,260,000
教育充実費	3,000,000	1,000,000	1,000,000	900,000
納 期 別 計	5,180,000	2,160,000	2,145,000	
年度別納入金	9,485,000			4,385,000
6 年 間 総 計	31,410,000			

(注) 上記納入金以外に、入学手続時にPA会(保護者会)会費(年額100,000円)のうち第1期分50,000円および学友会入会金5,000円、学友会会費(年会費)10,000円をそれぞれ委託徴収します。

2. 任意の寄付

入学後、「募集趣意書」により任意の寄付金をお願いします。

※入学前の寄付金募集は行っていません。

3. 既納入金の返還について

入学手続完了者で平成21年3月31日(火)午後5時までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。

4. 奨学金貸与制度について

本学では、学業・人物ならびに経済的事情等を考慮して、選考のうえ貸与する奨学金制度(1学年原則として5名、1人当たり年額約170万円)があります。

上記の他、仁泉会(本学同窓会)奨学金、日本学生支援機構奨学金(旧:日本育英会)、その他の奨学金貸与制度もあります。

5. 特別奨学ローン制度について

本学に入学した者および在学生の保護者に対して、本学と協定を結んだ銀行(三井住友銀行 高槻支店、三菱東京UFJ銀行 茨木駅前支店)による本学納入金を使途とする特別奨学ローン制度があります。

融資を希望される方は、融資が実行されるまでに相当期間(原則として申し込みから2週間以上)が必要であるため、できるだけ早く各銀行に相談され、お申し込み下さい。

出願資格や各入学試験実施の詳細等については、必ず
入学試験要項(有料:1,200円)の内容をご確認下さい。
資料請求は下記ホームページから請求可能です。

■入試に関する最新情報や資料請求は■

大阪医科大学ホームページ : <http://www.osaka-med.ac.jp/>

■入試に関するお問い合わせは■

大阪医科大学 広報・入試センター TEL072-684-7117(直)

平成21年度入学試験

Ⅱ 平成21年度 大学院医学研究科（博士課程）一般・社会人・外国人留学生入学試験要項

1. 専攻・コース名

平成21年度より、医学研究科は1専攻（医学専攻）5コース制となります。

（平成20年6月30日文部科学省届出）

専攻・コース名		授 業 科 目				
医 学 専 攻	予防・社会医学研究 コース	微生物学・感染制御学 リハビリテーション医学	法医学 心理学	衛生学・公衆衛生学	救命救急医学	
	生命科学 コース	解剖学	生理学 生化学	薬理学	生体分子学	
	高度医療人養成 コース	病理学 皮膚科学 胸部外科学 産婦人科学 救命救急医学	内科学Ⅰ 放射線医学 脳神経外科学 麻酔科学	内科学Ⅱ 臨床検査医学 整形外科学 泌尿器科学	内科学Ⅲ 一般・消化器外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 形成外科学	神経精神医学 小児科学
	再生医療研究 コース	解剖学 形成外科学	一般・消化器外科学 脳神経外科学	胸部外科学 病理学	整形外科学 眼科学	産婦人科学
	先端医学研究 コース	【がん医療に携わる専門医師養成コース】 ・がん薬物療法医プログラム ・放射線治療医プログラム ・腫瘍内視鏡外科医プログラム		内科学Ⅰ 放射線医学 一般・消化器外科学 胸部外科学 泌尿器科学 産婦人科学	内科学Ⅱ	
		【腫瘍特異的治療研究コース】	脳神経外科学 放射線医学			
		【疾患プロテオミクス解析コース】	臨床検査医学 薬理学 生理学			

2. 入学試験

募集人員	54名（一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験の合計）	
出願期間	平成20年12月1日（月）～平成21年1月9日（金）※必着	
入学検定料	30,000円	
試験日	平成21年2月5日（木）	外国語・面接
	平成21年2月6日（金）	専攻授業科目
合格発表	平成21年2月27日（金） 午前9時	
入学手続締切	平成21年3月13日（金） 午後3時	

3. 納入金

	初 年 度 納 入 金			2年次以降 納入金（年額）
	第1期（入学手続時）	第2期	第3期	
入 学 金	230,000円			
授 業 料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
実 習 料	40,000円	30,000円	30,000円	100,000円
合 計	340,000円	100,000円	90,000円	300,000円

4. 奨学金給付制度

解剖学、病理学、微生物学・感染制御学、生理学、生化学、薬理学、生体分子学、衛生学・公衆衛生学、法医学、心理学に所属する学生に対し、経済的状況等を総合的に勘案し、在学期間中に年額300,000円の奨学金を給付します。

5. 学生教育研究災害障害保険

大学院在学中、実験・実習などの正課、大学行事、課外活動、大学敷地内における不慮の事故および通学途中・施設間移動中における交通事故等が発生した場合に対する補償制度です。

本研究科では、大学院在籍中により安心して研究活動を推進できるよう学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約保険含む）Bタイプおよび医学生教育研究賠償責任保険（医学賠）に全員加入しています（費用は本研究科が負担しています）。

Ⅲ 平成21年度 看護専門学校一般（前期・後期）及び推薦入学試験試験要項

■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）		一般入学試験（後期）	
募集人員	50名		10名	
出願期間	平成20年12月8日(月)～12月24日（水） ※午後4時30分必着		平成21年1月19日（月）～1月29日（木） ※午後4時30分必着	
入学検定料	25,000円		25,000円	
試験日程	一次試験 <筆記試験>	平成21年 1月10日（土）	<筆記試験> <面接試験>	平成21年 2月7日（土）
	一次試験合格発表	平成21年 1月11日（日）		
	二次試験 <面接試験>	平成21年 1月11日（日） ※一次試験合格者の のみに実施	後期試験合格発表	平成21年 2月14日（土） 午前9時
	前期試験合格発表	平成21年 1月17日（土）午前9時		
試験会場	看護専門学校			
入学手続締切	平成21年1月29日（木） 午後4時50分		平成21年2月27日（金） 午後4時50分	

■推薦入学試験

募集人員	20名
出願期間	平成20年11月1日（土）～11月7日（金） ※午後4時30分必着
入学検定料	25,000円
試験日程	平成20年11月14日（金）
合格発表	平成20年11月21日（金）
試験会場	看護専門学校
入学手続締切	平成20年12月5日（金） 午後4時50分

平成21年度入学試験 研修結果報告

共通事項(一般・推薦)

1. 納入金

費目	金額	備考
入学金	300,000円	
授業料	200,000円	前期分(後期分は10月15日までに納付)
施設設備費	20,000円	〃(〃)
実験実習料	25,000円	〃(〃)
計	545,000円	

2. 奨学金

①大阪医科大学附属看護専門学校奨学金

大阪医科大学附属看護専門学校奨学金貸与規程に基づき、**希望者全員**に授業料相当額(40万円)を毎月分割して貸与します(第1回交付は4月24日です)。

この奨学金は、本校卒業後に引き続き大阪医科大学附属病院へ勤務した場合は、勤務期間に応じて返還額が免除されます(3年以上勤務した場合は全額免除されます)。

ただし、国家試験不合格の場合は奨学金の全額を一括返還していただきます。また、留年した場合はその年度に限り奨学金の貸与は停止されます。

②日本学生支援機構奨学金

③大阪府看護師等修学資金等の奨学金

3. 卒業後の資格

①看護師国家試験の受験資格

②保健師学校や助産師学校の受験資格

③専門士(医療専門課程)の称号授与

④大学又は短期大学への編入が可能

通信教育講座の研修結果報告について

平成19年度の管理職研修は本年1月からスタートし、本年8月で修了しました。

今回は管理職を対象にした管理者基本コース、監督職を対象にしたマネジメント基本コースを13名が受講され、全員が無事修了されました。

なお、下記の方々については優秀な成績を収められましたので、紹介させていただきます。今後、研修で習得されましたことを実務に生かせるよう頑張っていたいただきたいと思います。

【管理者基本コース】

課長 角江 司(病院医療相談部)
課長代理 西原 雅美(病院薬剤部)
課長代理 久島さゆり(臨床治験センター)
技師長代理 池本 敏行(中央検査部)

教務主幹 森山 幸子(附属看護専門学校)
教務主幹 小牟田美幸(附属看護専門学校)
教務主幹 守本 俊子(附属看護専門学校)

【マネジメント基本コース】

主 任 西村 果純(病院薬剤部)
主 事 沖原 香(病理学)

主 事 永岡 保(施設課)
主 事 徳富 真洋(リハビリテーション科)

■リバプール大学およびハワイ大学医学部学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成20年6月23日から7月4日まで英国リバプール大学医学部の学生4名（第4学年 Latifa Patelさん、Anju Nandhraさん、Sailish Honap君、Daniel Mullally君）が海外選択臨床実習の一環として、またハワイ大学医学部の学生3名（第1学年Erin Fullerさん、Kambrie Katoさん、Shaina Sonobeさん）が相互交流協定に基づいて本学附属病院などで研修を受けました。

近年、欧米の大学では、選択臨床実習制度を利用して海外での研修が盛んになりつつあり、今回の英国医学生は、シンガポール大学からの臨床実習生に続いての受入でした。

学生達はオリエンテーションの後、予めリクエストのあった診療科に本学5年生のクリクラ・カリキュラムにあわせて配属されました。また実習後半の2日間はBMLに参加し、また最後の3日間は、北摂総合病院での研修が実施されました。リバプール大学の学生は、主に内科（B、Cユニット）消化器外科などで、またハワイ大学の学生は小児科、胸部外科、麻酔科、産婦人科、脳神経外科での研修でした。

北摂総合病院では木野病院長らの指導により、リバプール大学の学生は消化器および循環器内科を中心に、またハワイ大学の学生は一般消化器・呼吸器外科、整形外科などで研修を受けました。

英国の医学教育は5年制（学期は9月～翌年7月）であり今回の学生は4年次最終のカリキュラムとして来訪したものです。彼らの気風や生活習慣は、ハワイの学生ともまた違ったもので、一緒に実習を受けた本学学生にとっても、また指導していただいた教員にとっても大変刺激になったと思われます。一方ハワイ大学の学生は今回が3回目の受入ということもあり、先輩からの事前情報やアドバイスもあったらしく、本学でのカリキュラムや高槻での生活にスムーズに溶け込めた様子でした。研修が終わり、彼らの評価表とともに修了証書を授与した時はさすがにホッとしました。

このたびの研修に際し、ご指導いただいた本学の教職員各位、北摂総合病院の諸先生方、スタッフの皆様、また終始エスコートしていただいた5年生・国際交流部を中心とした学生諸君に対しあらためて御礼申し上げます。

以下ハワイ大学学生3人を代表してKambrie Katoさんから、そしてリバプール大学の学生4人からのメッセージをご紹介します。



学長室にて
前列左より：ハワイ大学学生 Ms.Kambrie Kato、
Ms.Erin Fuller、Ms.Shaina Sonobe、植木学長、
リバプール大学学生 Ms.Anju Nandhra、
Ms.Latifa Patel、
後列左より：Mr.Daniel Mullally、
Mr.Sailish Honap、河野センター長

Erin Fuller, Shaina Sonobe, and I were first time visitors to Japan. We walked in to the experience at Osaka Medical College (OMC) with excitement and gratitude, but we had no idea what was in store for us. Needless to say, if any of us had any expectations, they were well exceeded. Not only did we all get to observe more procedures, surgeries, and patient interactions than we ever had before, but we were treated amazingly by the staff, doctors, and students of OMC. People always say that the hospitality in Japan is on a different level; it's terrific. There is no doubt about that. The doctors all made great efforts to communicate with us in English, making sure we knew what was occurring. They took us to amazing dinners. The OMC students took time out of their own busy schedules to take us sightseeing in Nara and Kobe and to take us to dinner.

Individually, each of our experiences in the hospital was a little different. Shaina spent some time following Dr. Doi in anesthesiology. Over two days, Shaina was able to watch Dr. Doi manage all the surgeries going on in the operating room, including a C-section, a removal of a leiomyoma, a cleft palate repair, an extra digit removal, and a rotator cuff repair. The days may have been long and

busy, but they were well worth it. Shaina always came back to the hotel bursting with excitement, and with a smile on her face, she would recount her day. Her positive experiences in the hospital continued as she shadowed Dr. Nemoto in cardiosurgery. She was able to watch a coronary artery bypass graft surgery (CABG), an abdominal aortic aneurysm (AAA) repair, and a removal of a tumor near the patient's left ventricle. After shadowing Dr. Nemoto, Shaina was able to shadow Dr. Yamada and Dr. Nonoguchi in neurosurgery and Dr. Yamashita in obstetrics/gynecology.

Meanwhile, Erin had the opportunity to follow Dr. Okamoto in pediatric rheumatology at the outpatient rheumatology clinic. She sat in on many appointments with the patients and was able to gain a good understanding of what a typical day in the clinic is like. The next day, Erin shadowed Dr. Ogihara in the Neonatal Intensive Care Unit (NICU) and learned about his research on KL-6, a predictive indicator of bronchopulmonary dysplasia in newborns. In pediatric neurology, Dr. Fukui took Erin on her inpatient rounds. Erin got to observe more inpatient rounds with Dr. Mori, Dr. Okumura, and Dr. Kishi in pediatric cardiology. While following Dr. Yamashita for obstetrics/gynecology, Erin watched a C-section, a historectomy, and a laparoscopic removal of a uterine tumor. With such a wide range of experiences, from inpatient rounds to surgeries, Erin's experience was broadened even more with her last rotation in neurosurgery. There, Dr. Ikeda took her to the department meeting where various cases were presented. Following the meeting, Dr. Ikeda introduced Erin to some neuroanatomy and gave her some tips on how to read CT scans.

My experience at OMC was also a little different than Erin's experience and Shaina's experience. I started off in the NICU with Dr. Oue where he showed me how to do a newborn baby examination and how to bathe the newborns. In pediatric neurology, I followed Dr. Shimakawa and Dr. Fukui during their inpatient rounds. Dr. Yoden taught me how to read and perform an abdominal ultrasound during my rotation in pediatric gastroenterology. I really appreciated the time he took to introduce me to the abdominal ultrasounds before he started to perform them on his patients so I knew what was generally taking place. My final pediatric rotation was in hematology/oncology with Dr. Kawakami and Dr. Inoue. In my second week at OMC, I joined Shaina, shadowing Dr. Yamada and Dr. Nonoguchi in neurosurgery and Dr. Yamashita in obstetrics/gynecology. In neurosurgery, we sat in on a ventriculostomy and a surgery for the removal of a brain tumor. In obstetrics/gynecology, we watched a C-section and observed abdominal ultrasounds performed on pregnant patients.

Erin, Shaina, and I always came together at the end of our days in the hospital to discuss the experiences we had. Though each of our days was a little different from each other, we always agreed they were great days that left us with valuable experiences. We all may not have come to Japan and OMC knowing what was in store for us, but we left filled with memories and gratitude that will stay with us for years to come. We do not know exactly how to convey the immense appreciation we feel towards everyone we have met during our visit. We have nothing but good things to say about our experiences at OMC. And we are thankful beyond words.

Kambrie Kato from University of Hawaii



Our placement at OMC provided us with an invaluable opportunity to explore new and old clinical disciplines and to observe how medicine is taught in Japan. Throughout our stay we learnt about the Japanese culture and traditions and were able to visit some of Japan's most beautiful sights.

Experiencing life as a Medical Student in Japan was most enjoyable. In particular our teaching sessions with the Professors were some of the many highlights; we were given the opportunity to practice endoscopy, bronchoscopy and use Simulator K (Ichiro) as well as meet patients in the ward

rounds at JECCS. The close doctor-student relationship we experienced in Japan was completely new to us.

We were all very impressed with the “8th International Exchange Symposium” and we think that it is a fantastic way to broaden our understanding of medical education around the world. We were honoured to be invited to take part.

We would like to thank all who were involved in our acceptance and the immaculate organisation of our placement. We are grateful to all the Professors, Doctors and staff from OMC and Hokusetsu General Hospital who welcomed us into their departments and took the time to teach us. We would also like to thank the 5th year students from Unit A and B for helping us settle in, teaching us about life as a medical student in Japan and accompanying us on the several memorable events held by OMC.



7 A病棟にて花房病院長と

We have left Japan with some wonderful memories and great experiences having met so many wonderful people whom we hope to keep in contact with. We only hope that one day we may return your hospitality.

Yours thankfully,

Latifa Patel, Sailish Honap, Daniel Mullally and Anju Nandhra
L.patel@liv.ac.uk, S.honap@liv.ac.uk, D.mullally@liv.ac.uk, A.nandhra@liv.ac.uk
4th Year Medical Students
University of Liverpool
England

■第8回国際交流シンポジウムを開催して

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

中山国際医学医療交流センターでは、文科省・私立大学特別補助を受けて毎年1回7月に学生を中心とした国際交流に関するシンポジウムを開催してきましたが、今年は7月4日（金）に第8回国際交流シンポジウムが行われました。

今回のシンポジウムは「それぞれの国の医学教育・スクールライフ・文化を学ぼう」をメインテーマに、米国、イギリス、中国、韓国、ロシア、シンガポール、イラン、日本の8カ国の医学生、大学院生・ポストクの参加を得て開催されました。

米国からは4年前より PBL tutorial 教育や臨床実習に関する交流協定に基づき、昨年同様本学で研修を行ったハワイ大学医学部の学生3名（Erin Fullerさん、Kambrie Katoさん、Shaina Sonobeさん）が参加しました。イギリスからは、海外選択臨床実習で初来日したりバプール大学医学部の学生4名（Sailish Honap君、Daniel Mullally君、Latifa Patelさん、Anju Nandhraさん）の参加でした。中国からは昨年について本学の衛生学・公衆衛生学大学院で研究を行っているSun Weiさん、イランからは同じく本学大学院を修了した一般・消化器外科学教室のポストクElham Fakhrejehaniさん、また本学5年生の里見英俊君が発表を行いました。ロシアからは6年前より相互に夏期病院研修を実施しているアムール医科アカデミーの学生を代表してAlexey Gorin君によるビデオ参加でした。またシンガポールからは、今年5月に本学で臨床実習を受けたシンガポール国立大学医学部のLee Hwee ChyenさんとJasmine Lee Mei Geneさんによる、同じくビデオでの発表（彼女達の研修中にあらかじめ録画撮りして

中山国際医学医療交流センター

おいたもの)、さらに韓国からは本年1月に韓国人材育成事業BK21プロジェクトの支援を受けて、本学で研修を受けた国立全北大学医学部の羅昌柱君、白知勲君、孫晩起君、梁東珍君、崔昇敏君によるビデオでの参加でした。

シンポジウムは、交流センター運営委員で、教育センター長である米田博教授の座長進行により行われました。発表内容は、各国の医学教育のシステムや、医師免許取得に至る仕組み、さらにスポーツクラブや文化活動などの学生生活等、お国柄の違いも反映された素晴らしいものばかりで予定時間の2時間があっという間に過ぎました。特に質疑応答ではコメンテーターとして参加していただいた衛生学公衆衛生学教室の清水宏泰講師やフロアの学生諸君による活発な質問は、引き続いて開催された本学食堂での意見交換会にまでおよび、学部学生や大学院生による国際交流を育むとともに英会話能力やコミュニケーションスキルの向上に資するというシンポジウムのもう一つの目的は十二分に達成されたことを実感しました。

この国際シンポジウムは年々参加国も増加し、発表内容も多彩でそれぞれ創意工夫がみられ、大変有意義であったとともに、ご助言ご助力をいただいた教職員各位、学生諸君に誌上をお借りして感謝申し上げます。



About the 8th International Exchange Symposium

reported by Elham Fakhrehjani MD,PhD

The 8th International Exchange Symposium of Nakayama International Center for Medical Cooperation (NICMC) was held on Friday, July 4th 2008 in Osaka Medical College (OMC). The motto of these exchange symposiums have always been: "Let's learn the education of medicine, the school life and the culture of each country." I was invited for the fourth time as a speaker and I was surprised to see that the number of presentations had increased prominently compared to the previous years!

The symposium was chaired by Prof. Hiroshi Yoneda, Director of OMC Education Center. It got started around 4:00 p.m by the welcome note by Prof. Koichi Kono, Director of NICMC.

In the first session, there were 3 video presentations by the students from Korea, Singapore and Russia. Korean students had visited OMC last January for 2 days. Two students from Singapore were in OMC during May. These students had got their presentations recorded while they were in Japan. The last video presentation was sent from Amur, Russia. Amur State Medical Academy (ASMA) has been an active cooperate of NICMC since 2003. It was a very thorough video with all the special effects and music! Unfortunately it was not possible to ask questions in this session and my question is still unanswered!

The second session started by students from Hawaii. They must have been very happy to get a chance to talk about their school and country on the U.S. Independence Day, July 4th! This year OMC was visited by students from the U.K. for the first time. And, it was my first time to hear about British medical education in person. They seemed to be teamed up well. It was the last day of stay for both students from Hawaii and Liverpool in Takatsuski. So they could point out to some of the similarities and differences between OMC and their medical school.

As the tradition goes with these symposiums, next was Wei Sun, OMC graduate student from



臨床第Ⅱ講堂にて
前列左より: Dr.Elham Fakhrehjani, Ms.Erin Fuller, Ms.Shaina Sonobe, Ms.Kambrie Kato, Ms.Anju Nandhra, Mr.Daniel Mullally, Ms.Latifa Patel, Mr.Sailish Honap, 里見英俊さん、河野センター長、米田教授(司会)、Ms.Wei Sun、後列左から4人目清水講師(コメンテーター)

China. She showed some sketches for the new campus of her university. And after her, I started my presentation by challenging the attendants to show my country (Iran) on the world map! As expected, nobody volunteered to show it!!

The last presentation was by Hidetoshi Satomi, medical student from OMC. I am afraid he was frustrated by his future career to an extent that his presentation had less about the school life in OMC.

Although there was not much time left all the speakers received a certificate of attendance from Prof. Kono, Director of NICMC and took a memorial photograph with all other attendants.

The symposium was followed by a party in the cafeteria. These casual parties are the best time for socializing and getting to know more people. There, I found out that the British students were planning to go to Australia for another short-term visit to a medical school the day after that. The Hawaiians were planning to do some sightseeing around Tokyo and both groups were busy exchanging emails and gifts with their hosts in OMC. They all looked happy with what they had got during their stay in Takatsuki. Congratulations NICMC! Once again you achieved what you had planned! Good luck with the future symposiums!



■アムール医科アカデミー夏期研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環として、ロシア・アムール医科アカデミーとの間で交流協定に基づき、学生・教員の相互研修を行ってきましたが、本年は7月18日より8月1日まで、本学5年生の石川翠さん、伊東優さん、西浩之君、八重垣貴英君、横田甚君の5名および、引率教員として歯科口腔外科の有吉靖則講師が、アムール州都ブラゴベスチェンスク市にあるアムール医科アカデミーや州立病院などでの研修に参加しました。

今回もまた病院での、総合内科、外科、産婦人科を中心とした体験臨床実習に加え、学生や市民との交流、市長訪問やテレビ出演など盛りだくさんのカリキュラムが用意され、参加した学生諸君にとり一生忘れることのない貴重な経験になったものと思われまます。

本研修に対してご指導、ご助言をいただいた國澤理事長、植木学長をはじめ教職員各位、中山太郎日露医学医療交流財団理事長、本学PA会にあらためて深謝申し上げます。

以下に学生諸君のロシア滞在報告を紹介します。

■アムール医科アカデミーへの研修を振り返って

石川 翠

一昨年前この研修を知った時から、是非アムールへ行ってみたいと思っていました。ロシアへ滞在するという経験自体が貴重であり、さらに国外の病院を研修できるのは医学部ならではの国際交流ができると思ったからでした。

私が何より驚いたのは、医学生が1年生から臨床に関わっている事でした。ロシアの医学部も6年制です。1年生のときに、アルバイトという形で注射・点滴、病棟の掃除、夜勤をして働いている学生もいました。また、3、4年生では実際に手術に参加していました。勿論、患者の意識や病院の形態が日本とは異なっているため成り立つことですが、私はそんな経験が出来ることを羨ましく感じました。また学生結婚が普通である



ウェルカムパーティーにて
(前列左から3人目が石川さん)

という事にも驚きました。ブラゴヴェスチェンスクにはアムール医科アカデミーを始め大学が多い学生の街であるため、周産期医療センターで見た多くの妊婦さんとても若かったです。平均出産年齢は24～25歳とのことでした。

アムール地域は日本より日没が遅く、夜8～9時でもまだまだ明るい事にも、驚かされました。さらに、夜9時をピークにアムール川の川沿いには人が沢山歩いていました。それが大人も子供も関係なく散歩やお茶をのんびり楽しんでいたのが、印象的でした。

このような価値観も環境もその背景もまったく違う文化に触れ、知る事が出来たのは、これ以上ない楽しさでした。何よりただの旅行で終わらないのが、実際にその場で生活している学生さんや医師と会話をし、一緒に過ごす日々があったことです。ダンスをしたり川や湖で泳いだり、普段にはない経験もたくさんさせていただきました。

旅立つ前までは、環境や安全面について不安もあったのですが、ハバロフスクにおいてもブラゴヴェスチェンスクにおいても教授や学生から本当に手厚くお世話していただいて感謝の気持ちでいっぱいです。来年アムールの学生が日本に訪れた時には、是非同じ様に日本の医療や文化に驚き楽しんでもらいたいと思っています。



■アムール医科アカデミー派遣に参加して

伊東 優

7月18日から8月1日までロシアのアムール医科アカデミーで研修させていただきました。病院実習の内容は、外科3日、産科2日、内科3日でした。

外科では患者の方のお話を聞かせていただき、その後、その患者の方の手術を見学させていただきました。外科では、腹壁癒痕ヘルニア、十二指腸潰瘍、レリッシュ病の手術、また、産科では帝王切開を見ましたが、手術見学の際に驚いたのは、日本との清潔の概念の違いと、学生の病院実習での様子です。1つ目の清潔の概念の違いについてですが、ロシアでは日本ほど厳格な清潔の概念が無く、国によって医療に対する考え方も大きく違うことに驚きました。2つ目の学生の病院実習での様子についてですが、ロシアの学生は医師のアシスタントとして処置を行えるくらいにまで様々な手技を身につけており、日本との違いに驚かされました。これは、日本の医学教育では病院実習をするのは主に5回生で、実践より理論を学ぶ機会が多いですが、ロシアでは2回生から病院実習をし、2回生以降の各学年で理論と実践を学ぶ機会がバランス良く割り当てられているという教育システムの違いがあるためだと思います。現在の日本でこのシステムを取り入れるのは難しいかもしれませんが、2回生のころから医療現場に触れることができるのは、医学生にとっては素晴らしい環境であると感じました。



周産期医療センターにて（右側が伊東さん）

内科では、喘息、糖尿病、甲状腺機能亢進症、肝硬変の患者の方の問診や身体診察をさせてもらうことができました。実習で見られる疾患を事前に知らされていたため、前日にその疾患についての医学英語を勉強したり、英語でどのように問診すればよいかなどを考えたりすることで、医学だけでなく英語の勉強にもなりました。実習当日は、内科の先生がお手本を見せてくださった後積極的に触診をさせてくださり、また詳しく解説してくださいました。身体診察はOSCEで習ったものとそれほど大きな違いはありませんでしたが、丁寧なご指導のおかげで非常に多くのことを得られました。

病院実習が無いお昼間は、アムール医科アカデミーの学生が市内を案内してくれたり、夜にはサウナ

やビールバー、ナイトクラブに遊びに連れていってくれたりもしました。アムール医科アカデミーの学生やボロディン教授のあたたかく、手厚いもてなしのおかげで毎日楽しい日々を過ごすことができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。アムール医科アカデミーの学生と出会い過ごしたこの2週間は、言葉では表せないほど貴重な体験となりました。

最後になりましたが、このような素敵な機会を与えてくださった河野教授、出発まで準備をしてくださった中山国際医学医療交流センターの方々、そして、学生5人を引率してくださった有吉先生に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



■アムール医科アカデミー研修を終えて

八重垣 貴英



ブラゴベスチェンスク市長室にて
(前列一番右が八重垣さん)

去る7月18日から8月1日にかけて、アムール医科アカデミーにて海外研修プログラムに参加させていただきました。今回この海外研修に参加させていただいた理由は、学生の中に海外の医学、特に病院で実際に行われている医療をこの目で見ておきたかったからなのですが、思っていた以上にたくさんのものでることができました。体験したことの一部をご紹介します。

僕たちが訪れたブラゴベスチェンスクという都市はロシアの東側、日本との時差が2時間の場所にあります。夏の気候はちょうど同時期の北海道に似ている印象を受けました。町並みはヨーロッパのように歩いている人たちもお洒落な美しい町です。

病院実習で最も印象に残った体験は、血管外科の手術に入らせてもらったことでした。大阪医大での実習で既に何例かの手術に入ったことはありましたが、国が変わると手技や考え方が異なることが分かりました。また、内科や産婦人科の実習では、打診や聴診の重要性が高く、それらの手技について詳しく教わることができました。親切に一つ一つ教えていただいたおかげで、より理解が深まったように思います。

病院実習で最も印象に残った体験は、血管外科の

今回の研修で得た何より大きな収穫は、自分と同じ年代の医学生ができたということでした。彼らと話して感じたのは、ロシアの学生の医学生としての意識の高さです。彼らは大学2年生の頃から病院内で実習を行い、賃金をもらってスタッフとして働いてもあります。その為、知識や技術の習得について責任と誇りを持っているように感じました。そういった海外の友人と知り合うことで、彼らに負けないように頑張ろうと思うことができました。僕の将来にとって大きな糧となるだろうと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ずっと付き添っていただいたボロディン教授をはじめ、先生方や生徒の皆さん、そして患者さんたちに助けられ、一生忘れられない貴重な体験をさせていただきました。そして、このような機会を与えてくださった大阪医大の先生方に深く感謝いたします。ありがとうございました。



■ロシア体験記

西 浩之

今回夏の2週間を利用して、ロシアのアムール医科アカデミーを訪問させていただきました。そもそも今回ロシア訪問を希望したのは、このような形でなければロシアを二度と訪問することはないのでは

中山国際医学医療交流センター

ないかと思ったこともあります。海外の医療を直に体験できると思ったからでした。現地の病院では、外科・内科・産婦人科を見学させていただきました。医師・患者さん共にフレンドリーで、楽しみながら見学することが出来ました。全てを見たわけではありませんが、和気藹々とどこか心のゆとりを持って医師たちが働いているように感じられました。アムール医科アカデミーでは2年生の時から病院内を見学すると聞いていましたが、実際に4年生の学生が積極的に治療等に参加していました。というのも患者さんは無料で治療を受けることができるかわりに、学生が医療に参加することに同意するといったシステムが確立されているからでした。患者さんにとっても学生にとってもプラスとなるシステムだと感じました。

またロシアでは医師の数も多く、さらに日本で言うところのかかりつけ医のシステムが確立していて働きやすい環境にあるためか女性の医師がたくさんいました。ロシアでは医師と教師は女性向きの職業であるそうで、その点でも文化の違いを痛感しました。ロシアの医療だけではなく文化的な面も知ることができ、非常に貴重な2週間となりました。

今回のロシア訪問でお世話になった先生方を始め中山国際医学医療交流センターの皆さんありがとうございました。



周産期医療センターにて産婦人科の教授・4年生の学生たちと（前列中央が西さん）



■アムール医科アカデミーの研修にて

横田 甚



お別れの時にブラゴベシチェンスク駅にて（前列中央が横田さん）

今回、日露交流の一環としてロシア・アムール州ブラゴベシチェンスク市にある Amur State Medical Academy で研修できたことに深く感謝申し上げます。

大学に入学した当時、山岳部のOBでもあり、学長でもあった島田先生が交流の第一陣としてロシアでの体験を書かれた手記を拝読してからロシアへの研修が頭の片隅にありました。

普段の生活では全く交わることのない、近くて遠い大国ロシア。そして異国の医学生達が何を考え、どのように医学を学んでいるのか？分からないことだらけの始まりでしたが、向こうで時間を過ごすうちに、その疑問も氷解し、楽しく有意義な時間を過

ごすことができました。

今の時代、情報を集めることは本やネットを使えば簡単に集められると思っていましたが、ロシアやブラゴベシチェンスクについてはほとんど見つけることができずに出発となりました。その分、不安は多かったですが、代わりに初めて乗るシベリア鉄道からの風景やブラゴベシチェンスクの素朴な街並みに素直に感動や共感することができました。

また、ASMAの学生との交流も、飲み会（ウォッカ）、ナイトクラブ、アムール川での水泳など様々なレクリエーションがあり、その雰囲気は同じ大学生のものでした。

びっくりしたのは、お会いしたのは学生だけではなく、アムール州の副知事やテレビの取材、病院の

スタッフの方など多くの方々とお会いしたことで、とても良い人生勉強になりました。

また病院実習では、外科ではオベのアシストに入らせてもらったり、内科では実際に患者さんの協力
で内科の基本的な手技についても日本ではできない程、深く理解することができました。

これからも悩む問題ではありますが、自分は何科を志望し、どんな医者になりたいのか？この命題に
ついて、理解を深める新しい手がかりをロシアで得ることができました。

最後にそのような機会の為に、尽力くださいました関係各所の皆様に厚く御礼申し上げます。



■大連経済開発区医院の訪日団来訪について

中山国際医学医療交流センター運営委員 黒岩 敏彦



中山国際医学医療交流センターにて
前列右が岳院長、中央は運営委員黒岩教授

平成20年4月7日（月）、大連経済開発区医院の訪日団が、院長の岳 忠生先生をはじめ、副院長、脳外科主任など5名で本学を訪れました。半日だけでしたが、外来、病棟、図書館、研究室などを見学され、中山国際医学医療交流センターよりAttendance Certificateが授与されました。



■オランダ・マーストリヒト大学医学教育研究所Johannes Jozef Eduard Rethans准教授の本学での講演について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成20年8月8日（金）、オランダ・マーストリヒト大学医学教育研究所のJohannes Jozef Eduard Rethans准教授が本学で講演のため来訪されました。Rethans准教授は医学教育、特にスキルラボ教育に関する第一人者であり、今回の来日では、東京、岐阜、滋賀などでも講演をされました。本学では教育センターとの共催で「マーストリヒト大学スキルラボにおけるスキルトレーニング -30年の活動」のタイトルでの講演でしたが、オランダにおける実習を中心とした医学教育の現状がよく理解できる密度の濃い内容でした。

あわせて教育センター宮本講師らの案内で本学図書館、新講義実習棟、歴史資料館、看護学校などの見学をされましたが、本学の環境・設備の素晴らしさに、また西山副看護学校長によるTea Ceremonyの解説にしきりに感嘆されていました。講演後、中山国際医学医療交流センターよりVisiting Professorの授与がおこなわれ、両大学のさらなる交流に向けて一歩踏み出しました。



中山国際医学医療交流センターにて
左より河野センター長、Dr.Johannes Jozef Eduard Rethans、教育センター宮本講師

*** 新たな認定看護師誕生 ***

救急看護認定看護師

救急外来 堤 直美

当院は三島医療圏唯一の特定機能病院・災害拠点病院の指定を受けている大学病院であり、地域社会の医療・看護へのニーズは高く、安全で質の高い医療の提供が求められています。

そのため緊急度・重症度の高い患者様が通院・入院中であり、院内のあらゆる場所で急変が起きる可能性があります。私自身、急変時の患者様・家族への対応で自責の念に駆られる事があり、急変という緊急事態においても看護専門職として患者様・家族の生命と尊厳を守ることが非常に重要であると考え、認定看護師を目指しました。

2007年度臨床指数では救急外来受診患者数8,266人（救急車搬入患者数2,423人、自己来院患者数5,843人）でした。その中で、救急看護認定看護師は看護処置の優先度を、専門的な知識・技術に裏付けされた観察能力と実践能力を用い、迅速かつ確な対応による生命の維持を実践するとともに、実践の中で他の看護師への指導の役割も担っています。また、複数科の治療を要する患者様も多く、医師や技師、事務、他部署の看護師との協働環境の調整も救急看護師の求められる役割と考えます。患者様・家族は、診断と同時に治療が開始される非日常的な環境と、突然の発症や事故という予測のつかない状況に大きな不安を持っておられ、時間的制約がある中で手術や検査、蘇生の判断など大きな意思決定をしなければならない状況にあります。危機的状況下での意思決定を支援する看護が救急看護分野では必要と考えます。現在、救急外来や院内急変時の看護実践と救急看護の知識・技術の向上のための勉強会、院内での救命処置の研修を行っています。今後は各病棟での救急看護分野の患者様にも横断的に関わり、救急看護認定看護師として救急患者様・家族のQOLを高め、病院全体の看護の質の向上を目指していきたいと思えます。



摂食・嚥下障害看護認定看護師

55病棟 檀上 明美

現在、医療現場や施設・在宅において栄養の重要性について認識も向上し、点滴や経腸栄養剤の開発も進む中、口から食べることの大切さについて見直されています。また高齢社会が進み、疾病および加齢に伴う摂食・嚥下障害を患う患者さまも急激に増え、摂食・嚥下障害に対する看護の役割が社会的に求められています。摂食・嚥下障害は多種多様であり肺炎、栄養障害、脱水などの危険が隣り合わせに存在します。そのため個別性に応じた看護が必要とされます。専門的な知識を習得し個別性に応じた看護が提供できるよう、昨年度摂食・嚥下障害看護の教育課程を受験し、今年認定看護師の資格を取得しました。



食べるということは、人にとって楽しみのひとつであり、食べる喜びをなくしてしまうと、生きる意欲の低下にもつながります。食べる喜び、満足感が人にとって重要な意味を持ち、生きる活動力となります。患者さまと御家族と共に取り組み、たった1口のゼリーが飲み込むことができたその瞬間、患者さまと御家族の笑顔。それは看護する者にとっても喜びです。摂食・嚥下障害看護認定看護師として目指すものは、摂食・嚥下障害を伴った患者さまに1人でも多くの方に食べる機能の再獲得と、食べる喜

びを残すこと、そして患者さまと御家族の笑顔を取り戻すことです。

現在栄養サポートチーム（NST）の一員として活動を行っています。NSTの活動を通しチーム医療の中で、リスク管理を行い、正しい評価のもと嚥下機能を再獲得できるよう、患者さまとその家族と歩む看護を実践していきたいと思っております。

がん性疼痛看護認定看護師

64病棟 坂本 清美

がん患者の20～50%は、診断時にすでに痛みを経験しているといわれています。しかし最近でも、国内のあるがん専門病院の患者を対象とした調査では、患者の70%は十分に痛みが治療されていないという結果が出ています。痛みは身体的な苦痛をもたらすことはもちろんのこと、精神的、社会的にも大きな影響を及ぼし、がん患者のQOLを著しく低下させます。

また病理生理学的な観点からも、疼痛を放置することが痛みの悪循環を生じることや脊髄レベルで「痛みの記憶」を生じ、何治性疼痛の発生に関与することが示唆されています。そのため、がん疼痛の早期治療のため、痛みを有する患者と向き合い全人的にペインマネジメントを行うことが重要になってきます。

このような状況の中で、がん性疼痛看護認定看護師として、がん専門看護師や緩和ケア認定看護師と連携を図りながら、がん相談支援センターや緩和ケアチームと共に患者様のQOL向上に努めています。具体的には、横断的に病院内のがん性疼痛を有する患者の疼痛アセスメントを行った上で薬物療法の評価、看護師や医師、薬剤師とコミュニケーションを図りながらがん性疼痛緩和に努めています。

今後は、更に各チーム間の連携を強め入院・外来・地域との継続したがん性疼痛緩和医療が提供できるよう努力していきたいと考えております。



集中ケア認定看護師

ICU 濱崎 格

特定機能病院である本学において重症かつ高度な医療を必要とする患者様は年々増加・重症化し、在院日数の短縮に伴い病棟での重症度も増加しています。手術室の拡大に伴い手術件数も増加しており、ICU 8床という限られたベッド数のため呼吸器装着中のまま病棟へ帰室したり、通常ICUに入室すべき外科手術後の患者様が直接病棟へ帰室したりと病棟での重症患者は増加しています。人工呼吸器患者は陽圧換気に伴う血流不全から多臓器障害へ移行しやすく、安静臥床に伴う廃用障害の予防にも注意を払う必要があります。術後せん妄や鎮静・鎮痛により意思決定を支援する倫理的配慮は特に重要な問題です。重症化すれば、さらに多くのME機器の装着、栄養の低下、感染や皮膚トラブルなど、コメディカルとの連携が重要になってきます。

集中ケア領域の特徴として急性期だけでなく慢性期や終末期を問わずあらゆるクリティカル（臨界・極限・危機）な状況にある人々に対し、ヒトの生きようとする力を最大限発揮できるよう専門性の高い知識と技術をもって看護援助の提供をする役割を担っています。そのため、集中ケア認定看護師の主たる専門性は、危機的状況にある患者の家族への援助も含みつつ、過大侵襲下にある患者の基本的アセスメントを前提に、障害の程度を最小限に食い止めながら、早期に回復させる援助だと言えます。ハイケアユニットの導入も視野に入れながら、病院全体でより安全・安楽なケアが提供できるように看護の質



看護部

の向上と標準化を推進し、重症化させない看護を提供していきたいと思ひます。

認定看護師とは…

『社団法人・日本看護協会の審査に合格し、特定の分野において熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護を実践出来る者』とされています。看護現場において【実践】【指導】【相談】の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献しています。

インターンシップの看護学生を受け入れて

65病棟 看護師長 浅井明美

今年度、本看護部では平成21年3月卒業予定の看護学生に対し、病棟で実際に看護体験をしてもらうインターンシップを取り入れました。目的は、看護体験を通して本院の看護の魅力を理解してもらい、看護師確保につなげることができればと考えています。

当日、学生たちは9時に集合し、白衣に着替えナースキャップをつけて準備を整えました。現在はナースキャップを着用しない看護学校や看護大学が多く、初めてナースキャップを着けた学生が多かったです。学生たちがそんな自分の姿を嬉しそうに、少し照れくさそうに友人と見せ合っている姿が印象的でした。

看護体験では看護学生一人に対し担当看護師が一人ずつ付き添いました。子供たちやそのご家族とのコミュニケーションを図りながら、保清の援助や点滴作成・管理の見学等を実施してもらいました。先輩看護師は一人一人の患児の状況や援助の必要性、自分たちがどのような気持ちで日々患児やそのご家族に関わっているのかを学生たちに説明しながら一緒に援助をしていました。ナースステーションでの患者カンファレンスも見学し、看護師間のコミュニケーションの大切さも実感してもらいました。

お昼の休憩もスタッフ達と一緒に過ごすことで、ナースステーション内とは違う表情のスタッフの話に加わり、楽しい時間を過ごし緊張も解けてきたようでした。

午後からは、今年の新卒看護師と話しをする時間を設けました。卒後1年目の実体験を聞き、その看護師が病棟の中で生き生きと仕事をしているのを見ることは、とても良い刺激になった様子でした。

看護体験終了時に感想を問うと、「とても楽しくて、良い経験ができました。今まで、いろいろな病院に実習に行きましたが、看護師がこんなに楽しそうに笑顔で看護している病院はありませんでした。」「患者さんの事を本当に大事に考えていることが伝わりました。」という答えが返ってきました。それを聞いて、看護部の理念である「患者中心の看護・ベッドサイドケアの重視」が実践されており、看護学生たちにも伝わったことが嬉しく、そして、そのことをしっかり伝えてくれた先輩看護師の成長に頼もしさと喜びを感じた1日でした。

看護学生はこの後、インターンシップの修了証と励ましの言葉を看護部長から頂き、名残惜しそうに先輩看護師に挨拶してインターンシップを終了しました。

インターンシップを体験した方たちが、当院の理念を理解され、患者さまに喜んで頂ける看護を实践するために私たちと一緒に働きたいと思って頂けたらと思います。

平成20年度 市民公開講座

■第4回

平成20年9月20日（土）14時～ 臨床第1講堂

『小児の腹痛』

講師：小児科学 講師 余田 篤史

『腹痛を予防するための工夫

－上手な消毒剤の使い方－』

講師：附属病院薬剤部 山口 真理子



☼『看護相談会』を開催致しました。

平成20年度 市民公開講座開催予定

回数	開催日	演 題	講師	演 題	薬剤師
第5回	11月15日(土)	皮膚のかゆみの診断と治療	皮膚科学 准教授 森脇 真一	皮膚外用剤(軟膏とクリーム)の違いについて	薬剤部 益森 啓子
第6回	12月20日(土)	在宅における栄養管理 －低栄養による肺炎、 床ずれ予防のために－	NST委員会 脳神経外科学 助教 山田 佳孝	栄養管理に使用されるお薬について	薬剤部 西村 果純
第7回	平成21年 1月17日(土)	ひざの痛みの話	整形外科 准教授 中島 幹雄	痛み止めを長く上手に飲んで頂くために	薬剤部 梅本 裕子

第20年度 解剖慰霊祭

日 時：平成20年10月18日（土）14：00～15：10

場 所：高槻現代劇場大ホール

当日は好天にも恵まれ、多数のご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）にご参列いただきました。来賓各位をお迎えし、本学役員、教職員、学生、看護専門学校生の参列のもと、諸霊位に対し、深い感謝とご冥福を祈り、厳かに終了致しました。



消火器取扱実地訓練及び地震体験の実施

平成20年9月11日（木）午後1時30分から総合研究棟前にて、高槻市中消防署の協力により、消火の実地訓練と起震車による地震体験が行われました。新入職員をはじめとする100名余りの参加者は、消火器の取り扱い方、地震の揺れを体験し災害対策への認識を新たにしました。



平成20年度 大学祭



今年は「今しかできないことがある」をテーマに10月11日（土）、さわらぎキャンパスにおいて「大学祭」が開催されました。

同キャンパスのグラウンドに設けられた野外特設ステージでは、軽音ライブを皮切りに、ヒーローショー（仮面ライダーキバ）、グリー部の歌唱会、学生イベント、吉本芸人によるお笑いライブ、ビンゴ大会など、多彩な催し物が行われました。

また、キャンパス内の他の箇所においても、各クラブが様々な工夫をこらしたイベントや出展を行い、日頃静かなキャンパスもこの日ばかりは賑わいを見せていました。

保育室運動会

小さな園庭での小さな運動会、時間も観客も少ないですが、身長わずか60から90cmの0、1、2歳の子供達にとっては自分をじっと見ているガリバーみたいな大人がたくさん居て一大事!! 今年は風邪で欠席の子もいたために少人数での演技となってしまう、緊張のあまり泣き出してしまう子も居ましたが、小さな勇気を振り絞り頑張っているスモールワールドのヒーローに、大人はしばしの間すっかり魅了されてしまいました。（内科学 I 鍵谷 真希）



消防合同避難訓練実施

平成20年10月23日（木）に、65病棟からの出火を想定した避難訓練を行いました。
はしご車による担架救出訓練や救助袋による降下避難訓練は、雨天のため中止となりましたが、約80名が参加し、火災通報、患者避難誘導などの訓練を行いました。



第1回 病院ボランティア研修会



第1回病院ボランティア研修会が下記のとおり開催され、教職員178名が参加致しました。

日 時：平成20年10月23日（木）17：00～18：30

会 場：臨床第一講堂

テーマ：『病院ボランティアについて』

～阪大病院での活動を通して～

講 師：特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会 副理事長 倉橋広子 先生

<http://www.nhva.com/index.html>

名誉・功労教授懇親会



日 時：平成20年10月24日（金）午前11時30分～

場 所：ホテル日航茨木大阪

名誉教授13名、功労教授1名の出席により、名誉・功労教授懇談会が開催されました。

早石名誉教授・元学長の乾杯の後、富永功労教授の司会により和やかに懇親会が進められました。



人権教育特別講義



平成20年度の人権教育に関する特別講義が下記のとおり開催されました。

日時：平成20年10月28日（木）17：00～18：00

会場：臨床第一・第二講堂

テーマ：『院内暴力について』

講師：大阪警察病院

事務次長 窪川 清 先生

院内暴力の状況や該当する罪、具体的な事例や対応などについてお話頂き、満員の会場では他人事ではない身近な事として真剣に受講していました。

第60回 西日本医科学学生総合体育大会

第60回西日本医科学総合大会がおこなわれました。広島大学医学部を代表主管校として、西日本の44大学が参加し、広島県を中心会場にして、7月下旬から8月上旬にかけて20種目の競技が行われました。本学の主な成績は以下のとおりです。

総合成績：17位

上位成績：剣道部 男子個人戦 3位 島田 亮

ゴルフ部 男子個人戦 3位 大門 篤史

4位 田中 克

5位 佐野 達志

水泳部 男子400メートル自由形 4位 和泉 賢一

女子100メートルバタフライ 2位 太田沙緒里

50メートルバタフライ 1位 太田沙緒里

女子400メートルフリーリレー 4位 前橋 伸子

上坂 美智

丸尾 英末

太田沙緒里

コメディカル水泳競技

400メートル自由形 1位 大坪 由衣

200メートル自由形 2位 大坪 由衣

今年の総合成績は17位でした。去年が1位だっただけに少し残念な結果になってしまいました。しかし、選手の皆様本当にお疲れ様でした。来年はこの結果をバネにして、よい成績を残せるように頑張ってください。先輩諸氏、教職員の皆様、今後とも温かいご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成20年 学友会会長 古林 玄

■ 西医体ゴルフ部門団体3連覇

3年生 大門 篤史

平成20年8月4～7日、第60回西日本医科学生総合体育大会ゴルフ部門が広島県の広島カンツリークラブ西条コースで開催され、ゴルフ部は第58・59回に続き3連覇を達成しました。

今年は、個人の3連覇もかかっていましたが、大会直前に高熱を出してしまい体調が良くない状態で西医体に臨むことになりました。体調が悪いながらもなんとか耐えることが出来、個人3位に入賞することが出来ました。団体は1日目からトップにたち、そのまま2位に大差をつけて優勝することが出来ました。今年は春から調子が上がらず非常に苦しい思いをしており、精神的にも体力的にも非常に苦しい西医体でした。個人では3連覇を逃がし3位と非常に悔しい思いでしたが、団体3連覇を成し遂げられて涙が止まりませんでした。

このような良い成績を収められたのも先輩諸氏、教職員の皆様の温かいご支援のおかげだと思っています。来年は、史上初の団体4連覇と個人の王者奪還を目指して頑張ってまいります。ご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



学長室にて

■ 大阪国際音楽コンクールアマチュア部門第1位

3年生 北野 裕孝

海外は4月末から、国内では7月から始まった“大阪国際音楽コンクール”にてアマチュア部門ヴィルトゥオーゾコース、同部門コンチェルトコースで1位となり、神戸市長賞・ハイアット賞を受賞しました。

夏休みにザルツブルグの国立モーツァルテウム音楽大学のサマーアカデミーに参加し、世界中の音楽大学生と共に音楽にひたる10日間を過ごしたことは、実に新鮮で有意義なものでした。時間が許せば、来年も参加したいと考えています。またこのコンクールを通じて、現在師事しているProf.Iuratoの師で国立ウィーン音楽大学・名誉学長であるProf.Frischenschlager、30年もの間カラヤンの右腕としてベルリンフィルのコンサートマスターを務めていたMr.Leon Spierer両氏のマスタークラスを受講できたことはかけがえのない経験となりました。

この夏はこのコンクールに全てをかけていたので、このような結果を残せたことに非常に満足しています。来年はアマチュア部門ではなく弦楽器部門に参加し、現役音大生と競い合いたいと考えているので、さらに練習を重ね自分の音楽性を高めていきたいと思っています。



Prof.Frischenschlager特別顧問（国立ウィーン音楽大学名誉学長）と共に

オープンキャンパス

平成20年8月8日(金)・22日(金)

最高気温36度の猛暑の中、遠くは鹿児島や福岡、高知から保護者の方を含め136名の方に参加していただきました。体験学習、在校生への質問に加えて、今年は新しく模擬授業を企画しました。参加していただいた方々はとても熱心で、初めての血圧計や聴診器の扱いに始めは戸惑っていましたが、交代しながらするうちにスムーズに測定できるようになっていました。校内も自由に見学していただき、熱心に質問もしていただきました。

ご参加ありがとうございました。これからのご縁を楽しみに、夢が現実となるように応援しています!!



火災避難訓練

平成20年9月1日(月)

夏期休暇を終えて元気に登校した学生は、9月1日の災害の日にあって大阪医科大学の災害対策委員会のご協力も得て、新校舎で初めての全学生・職員合同の火災発生時の避難訓練を行いました。

4階の在宅実習室からの出火を想定して、校内一斉放送・避難誘導放送が鳴り響きました。3階の教室にいた全学生が混乱もなく一斉に避難を開始し、10分の目標時間を設定していましたが、6分35秒で全員無事に避難を終了しました。その後、消火器の取り扱い、上階からの避難設備を使つての避難訓練も行いました。



何事もないことが一番ですが、人の命を支える立場として、何かあっても冷静に対処できる姿勢を日常から養っていきましょう。

スポーツ交流会

平成20年9月5日(金)

昨年に比べると多少涼風が通り過ぎるさわらぎキャンパス体育館で、恒例の全学年および教員でのソフトバレーボールと、ダンス等のパフォーマンスでの交流会（第9回）を開催し、学年やクラスを超えた交流の機会を持ちました。

例年は上級生のパワーに押されてソフトバレーボールで上位に残れない1年生でしたが、今年は頑張りました。パフォーマンス部門ではアイデアを凝らした衣装や演技に参加者全員が一体となり、心地よい充実感と達成感を得た笑顔で終了することができました。



戴帽式

平成20年10月17日(金)

平成20年10月17日(金)午後1時から、看護専門学校講堂において、戴帽式が来賓ならびに保護者の参加のもと厳粛に挙行されました。今年4月に看護の道に進んだ戴帽生81名(内、男子3名を含む)は、大阪医科大学附属病院の神谷看護部長と副学校長から戴帽されました。緊張の中でも嬉しさはひとしおの様子で輝いていました。ナイチンゲール像からの聖灯拝受を受け、81の灯火の中で誓いの言葉を斉唱し、今後への目標を決意しました。



(この様子は高槻ケーブルテレビ「街かどホットライン」で放映されました。)



誓いの言葉

私達、26回生は、次のことを誓います。

- 一、常に人を思いやる気持ちと、笑顔を忘れず協力しあいながら、自分自身を向上させていくことを誓います。
- 一、私達は、謙虚な姿勢で誇りと勇気を持って、優れた技を提供できる看護を目指します。
- 一、私達は、日々精進し、初心を忘れることなく、自分の行動に責任をもち、人々に愛のこもった看護をし続けることを誓います。

行事日程

■主な行事日程(平成20年12月～平成21年2月)

12月3日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会 診療科長会	2月5日(木)	教授会・大学院医学研究科委員会 医学研究科入学試験(外国語、面接)
6日(土)	実験動物慰霊祭	6日(金)	医学研究科入学試験(専攻授業科目)
9日(火)	理事会	7日(土)	看護専門学校入学試験(一般後期)
10日(水)	大講座主任教授会	10日(火)	理事会 医学部一般入学試験(前期)1次試験
17日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会	12日(木)	大講座主任教授会
19日(金)	看護専門学校クリスマスコンサート	14日(土)	第103回医師国家試験(～2月16日まで)
20日(土)	市民公開講座 医学部冬期休暇(12月20日～1月4日)	看護専門学校入学試験(一般後期)合格発表	
21日(日)	看護専門学校冬期休暇(12月21日～1月7日)	18日(水)	診療科長会
24日(水)	病院運営会議	19日(木)	教授会・大学院医学研究科委員会 医学部一般入学試験(前期)1次試験合格発表
1月5日(月)	年賀交歓会	22日(日)	第98回看護師国家試験
7日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会 診療科長会	23日(月)	医学部一般入学試験(前期)2次試験
10日(土)	看護専門学校入学試験(一般前期)1次試験	25日(水)	病院運営会議
11日(日)	看護専門学校入学試験(一般前期)2次試験	26日(木)	医学部一般入学試験(前期)2次試験合格発表 臨時教授会 医学部センター試験利用入学試験1次試験合格発表
13日(火)	理事会	27日(金)	医学研究科入学試験合格発表
14日(水)	大講座主任教授会		
17日(土)	大学入試センター試験(～18日) 市民公開講座 看護専門学校入学試験(一般前期)合格発表		
21日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会		
28日(水)	病院運営会議		
31日(土)	大学院FDワークショップ		



第21回 特別講演会(医療安全対策室)・第3回 特別講演会(病院医療相談部)

テーマ：『医療安全とコンフリクトマネジメント』

講師：自治医科大学外科学講座呼吸器外科部門 教授 長谷川 剛 先生

開催日：平成20年7月10日（木）・11日（金）

両日とも17：00～（但し、11日はDVD上映）

安全管理の体制確保に関する特別講演会が7月10日（火）午後5時から、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、長谷川剛先生を講師としてお迎えし、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者709名（内リスクマネージャー71名 初日366名、2日目343名）の出席のもと開催されました。

花房病院長の開会挨拶に続き、米田医療安全推進部長の司会により、長谷川先生より明快な口調で分かりやすく、『医療安全とコンフリクトマネジメント』と題し、ご紹介いただきました。

講演後の質疑応答では、参加者の質問に対し熱心にお答えいただきました。

また、研修終了後のアンケートでも、講師の話が軽快で分かりやすく、コンフリクトマネジメントの重要性やコミュニケーションの大切さについて理解できた等、好評との意見が多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、米田医療安全推進部長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のもと終了しました。



花房病院長 挨拶



米田医療安全推進部長 司会



質疑応答



全体風景

医療安全対策室関係

■第19回 事例検討会

開催日：平成20年9月26日（金）・10月1日（水）

両日とも17：00～（但し、10月1日はDVD上映）

テーマ・担当：

- ①医薬品安全管理に関する事例検討…… 医薬品安全管理責任者 西原 雅美
- ②AEDと除細動についての事例検討…… 救急医療部 准教授 西本 泰久
医療機器安全管理責任者 岩崎 孝敏

9月26日（金）午後5時より、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、米田医療安全推進部長の開会挨拶に続き、鈴木典子先生の司会により、教職員を対象に事例検討会が開催されました。

医薬品安全管理責任者西原先生より、具体的事例を用いた Medikation エラー防止について発表がありました。救急医療部西本先生からは、AEDの必要性と自らが行動することの重要性についてお話があり、医療機器安全管理責任者岩崎先生からは、AEDと除細動器の違いについての説明がありました。

3名の先生方ともに、明快な口調で非常に分かりやすくお話していただきました。

最後に閉会の挨拶として米田医療安全推進部長より同先生方への謝辞を述べられ、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者745名（初日479名、DVD上映会266名）の出席のもと、講演が盛会のもとに終了しました。



米田医療安全推進部長 挨拶



鈴木典子先生 司会



医薬品安全管理責任者 西原先生



救急医療部 西本先生



医療機器安全管理責任者 岩崎先生



質疑応答

※ 本院では、医療に係る安全管理のための職員研修は、全ての職員が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。今年度3回目の開催となり、毎回、多数の職員に参加していただき、安全に係る研修の参加意識も高まってきたように感じます。

※ 業務や時間の都合で研修会に出席できない方については、DVDでの研修で代替することを改善事例としています。DVD貸し出しの利用や医療安全対策室隣（2号館5階）の研修室で随時DVDが鑑賞できるようになっています。部署毎或いは個人でも利用できますのでお問い合わせください。（内線2990）。

■感染対策室からのお知らせ

血液汚染事故（針刺し事故）後の対応について

今年度の感染対策研修会を通じて案内をしていますが、血液汚染事故後の対応について簡単に説明します。血液汚染事故は大きく2つに分けられます。通常の血液汚染事故とHIV関連です。通常の血液汚染事故の場合、所属長に報告し、医事課に連絡してください。そこで、どのように行動すればよいか記載された文書の入った封筒を受け取ってください。その後、総合内科を受診して頂きます。原則としてウイルス肝炎の抗体価を事故後、0週、2週、4週、8週、12週、場合によって24週後まで検査します。もし、感染が確認されたら治療することになります。当院でのデータでは、過去10年以上にわたり、肝炎を発症したケースは1例あったのみです。

今回、10月から11月にかけて、HIV関連の血液汚染事故について院内感染対策研修会を行います。血液汚染事故の感染源がHIV陽性患者である場合、HIVに感染する率は0.3%と大変低いのですが、予防的に抗HIV薬を服用することでさらに低減できるため、事故発生後2時間以内に最初の服薬を行うことが推奨されています。当院では、HIV関連の血液汚染事故が起こった場合、すぐ抗HIV薬を服用していただくための体制を整えています。皆さまにはあらかじめ抗HIV薬を飲むかどうかを事前に決めておいて頂かなければなりません。研修会の内容はDVD撮影しておりますので、参加されなかった方は感染対策室までご連絡下さい。

感染対策室 室長 中川 俊正

平成20年度上半期病院患者動態

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	H20年度 平均	前年度 平均	対前年比 (%)
延入院患者数	21,884	21,611	22,882	23,569	23,148	21,288	134,382	22,397.0	21,638.0	3.5
（1日平均患者数）	729.5	697.1	762.7	760.3	746.7	709.6	-	734.3	709.5	3.5
（新入院患者数）	1,292	1,302	1,370	1,406	1,274	1,255	7,899	1,316.5	1,244.0	5.8
（病床稼働率）	88.3	84.4	92.3	92.4	91.2	86.6	-	89.2	87.3	2.1
（平均在院日数）[全体]	15.7	15.8	16.0	15.9	16.5	16.2	-	16.0	16.4	-2.5
延外来患者数	46,144	44,093	46,071	48,541	43,713	44,907	273,469	45,578	45,473.0	0.2
（1日平均患者数）	2,006.3	2,004.2	2,003.1	2,022.5	1,821.4	2,041.2	-	1,981.7	2,006.1	-1.2
（初診患者数）	4,739	4,836	4,963	5,034	4,574	4,412	28,558	4,759.7	4,803.0	-0.9

主要会議報告

■主要会議とその主な議題(平成20年8月～10月)

[理事会]

(平成20年8月19日)

—審議事項—

1. 3大学共同学部設置について

—報告事項—

1. 日本私立医科大学協会理事会報告について
2. その他

(平成20年9月9日)

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 仮設歩道の設置について
3. その他

(平成20年10月14日)

—審議事項—

1. 長期借入金について
2. 学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の一部改正について
3. 診療報酬の流動化について
4. 阪急北側の歩道設置について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. 保健看護学部設置に係る進捗状況について
4. その他

[臨時評議員会]

(平成20年10月14日)

—審議事項—

1. 長期借入金について
2. 阪急北側の歩道設置について

—報告事項—

1. 保健看護学部設置に係る進捗状況について
2. サテライトの設置について
3. さわらぎキャンパスの里道について

[大講座主任教授会]

(平成20年9月10日)

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 入学者の定員増に関する諸問題について

(平成20年10月8日)

—審議事項—

1. 各大講座からの報告

2. 医学部定員増に関する諸事項について

3. 保健看護学部設置準備について

4. その他

[教授会]

(平成20年9月3日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 医学部定員増について
3. 大学病院連携型高度医療人養成推進事業の採択について
4. キャリア支援センター(仮称)設置の基本構想と運営規程(案)について
5. 大阪医科大学学則の一部改正について
6. 特別協力研究員に関する内規の一部改正について
7. 臨床教育教授及び臨床教育准教授の選出について
8. 謝金等の支払に関する規程(案)について
9. 個人識別情報管理者及び個人識別副管理者の任命について
10. 休学の願い出について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 広報・入試プロジェクト委員長報告
5. 中山国際医学医療交流センター長報告
6. 市民公開講座運営委員長報告
7. その他

(平成20年9月17日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 教授の定年退職について
3. 入学者定員増の問題点について
4. 第5学年の進級判定(トライアル)について
5. 大阪医科大学附属病院キャリア形成支援センター長及びコーディネータの推薦について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告
4. 倫理委員長報告
5. ホームページ委員長報告

(平成20年10月1日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 皮膚科学教室教授選考委員会委員の選出について
3. 放射線医学教室治療担当専門教授選考委員会委員長の選出及び今後の日程について
4. 化学療法センター専門教授選考委員会委員長の選出及び今後の日程について
5. キャリア形成支援センターについて
6. 保健看護学部設置について
7. 科学研究費補助金の採択向上に向けての対策

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告
3. 学生生活支援センター長報告

(平成20年10月15日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 保健看護学部看護学科設置準備委員会委員長の選出について
3. キャリア形成支援センター専門教授について
4. 総合診療科専門教授選考委員会委員長の選出について
5. 大阪医科大学図書館長選出に関する規程の改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 広報・入試プロジェクト委員長報告
4. 教育センター長報告
5. その他

[大学院医学研究科委員会]

(平成20年9月3日)

—審議事項—

1. 平成20年度大学院整備重点化経費(研究科特別経費)選定について
2. 大阪医科大学大学院医学研究科履修細則(案)について
3. 大阪医科大学大学院学位規程の一部改正(案)について
4. 大阪医科大学大学院学位規程施行細則(案)について

—報告事項—

1. 平成20年度第2回学位論文審査申請締切につ

いて

2. 医学研究科医学専攻の設置届出について
3. 平成21年度学位論文提出のための語学試験について

(平成20年9月17日)

—審議事項—

1. 平成20年度第Ⅱ回学位論文審査申請について
2. 大阪医科大学大学院学位規程の一部改正(案)について
3. 大阪医科大学大学院学位規程施行細則(案)について
4. 大阪医科大学大学院医学研究科における在学年限の特例に関する内規(案)について

—報告事項—

1. 第4回(平成20年度)鉤奨学給付金の公募について
2. 第4回(平成20年度)鉤奨学基金研究助成金の公募について
3. 独立行政法人日本学術振興会リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業平成21年度分募集について
4. 平成21年度日本人海外留学奨学生及び日本人若手研究者研究助成金の募集について

(平成20年10月1日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学院学位規程及び同施行細則(案)について

—報告事項—

1. 平成21年度大学院入学試験要項及び大学院医学研究科要項について
2. 平成20年度第Ⅱ回学位論文審査について

(平成20年10月15日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学院医学研究科定員等の取扱いに関する申し合わせ(案)について

—報告事項—

1. 平成21年度大学院入学試験要項の販売について
2. 教育要項記載の統合講義「医学会秋季学術講演会」の日程訂正について
3. 平成20年度第Ⅱ回学位記授与式について
4. 平成21年度国内採用による国費外国人留学生の募集について

保健管理室からのお知らせ

■ 健診結果を活用しましょう！

10月20日(月)～10月31日(金)に平成20年度職員定期健康診断を実施しました。健康診断は「病気の予防・早期発見、治療」だけでなく、「自分の健康、生活習慣を考える」良い機会です。所見の有無に関係なく今回の健康診断結果を活用して、自分自身の体の状態や生活習慣を振り返ってみましょう。

また定期的に健康診断を受検することは、感染性疾患の早期発見・感染防止といった感染症対策にも重要なことであり、健康診断受検を含めて“自分の健康を管理する”ことは医療従事者の義務と言えるでしょう。

【健康診断の結果が・・・】

- ① 「正常範囲内」の方は、異常が無くても昨年の結果と見比べたり、生活習慣を見直してみましょう。『バランスよい食事』『楽しく運動』『ゆっくり休養』を！！
- ② 「要経過観察」「要医師指導」の方は、「再検査、精密検査、受診」を勧められている場合は放置せずに必ず再検査・受診をして下さい。また再検査や受診の必要がなくても、食生活、運動、喫煙、飲酒など生活習慣を見直し改善しましょう。
- ③ 治療中の方は、健診結果を主治医に見てもらいましょう。
- ④ 未だ健康診断を受けていない方は、早急に健診を受けて下さい。保健管理室までご連絡を。



■ 特定健康診断の対象の方は・・・

昭和9年4月1日～昭和44年3月31日生まれの方が対象となっており、本学での対象者は約630名（被扶養者を含むと約850名）です。加入者本人は本学での健診が代替とできますので、本学から健診結果を日本私立学校振興・共済事業団に提出します。そして国が定めた基準に従って判定がされた結果が送られてきますので、結果を参考にして生活習慣を見直して下さい。また特定保健指導の必要があると判定された方は、必ず保健指導を受けて下さい。

なお、被扶養者の場合は特定健診受診券が配布されており、各自で指定機関にて受けていただくことになっています。

保健管理室の掲示板（総合研究棟2階）などに健康情報を掲示しています。また西泉のご協力で職員食堂、看護食堂入口に「食事バランスガイドについて」を掲示しています。日頃の食生活など生活習慣を見直す契機にして下さい。

保健管理室では保健師が健康相談をしています。気軽にご利用ください。また各種リーフレット、体組成計、血圧計などもありますのでご活用下さい。

■ 一人ひとりの注意でインフルエンザを予防しましょう！

インフルエンザは単なる“風邪の一種”ではなく、時には致死的となるウイルス感染症で、特に高齢者や乳幼児、基礎疾患を有する患者様では生命にかかわることとなってきます。私たち医療従事者はインフルエンザに感染する可能性が高いとともに、ハイリスク群（患者様）にインフルエンザを伝播する

可能性が高いことも十分に認識し、予防に努めましょう。また近年、新型インフルエンザの脅威も高まっており、学生、職員が感染症や感染防止について知識を持ち、日頃より十分に注意することが重要です。

【予防の基本はワクチン接種】

インフルエンザの予防には流行期前（11月頃）のワクチン接種が有効です。本学では11月10～14日に学生、教職員対象にインフルエンザワクチン接種を実施しました。未だワクチン接種を受けておられない方は他の医療機関を受診し、ワクチン接種されることをお奨め致します。

— 日常からの健康管理が重要！ —

① 体力の低下を防ぐ

低栄養の予防、過労防止、睡眠・休養の確保、生活リズムの維持、適切な水分補給を心がけ、体力の低下を防ぎましょう。

② 手洗いとうがい

食事や作業の前後、外出後などは十分に手洗いとうがいをしましょう。手拭はペーパータオルや温風乾燥機が望ましく、タオルの共用は避けた方が良いでしょう。

③ 適度な湿度を保つ

インフルエンザウイルスは低温・低湿を好むため、加湿器などで適度な温度、湿度を保つことが効果的です（22℃前後の室温、50～70%の湿度を保つことが望ましいとされています）。

④ マスクの着用

マスクは気道粘膜の乾燥を防ぎ、直接飛沫による感染をある程度防ぐ効果があります。流行時期の人ごみへの外出時にはマスクを使用しましょう。

— あなたは大丈夫？ 咳エチケット —

咳やくしゃみをすると、ウイルスが2～3m飛ぶと言われています。

そこで重要なのが「咳エチケット」！

当り前の事です、でも出来ていない人が多いです。一人一人が少し注意するだけで、感染防止になります。

① 咳、くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周囲の人から顔をそむけましょう。

② 使用後のティッシュは、すぐにフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。

③ 症状にある人はマスクを正しく着用し、感染防止に努めましょう。



【インフルエンザにかかったら、早めに受診しましょう】

罹患が疑われる症状が出現した場合、早めに受診し治療を受けましょう。職場や学校を休むわけにはいかないと受診が遅れる場合が少なくありません。早期の治療は自分を守るだけでなく、他人への感染を防ぐためにも重要です。

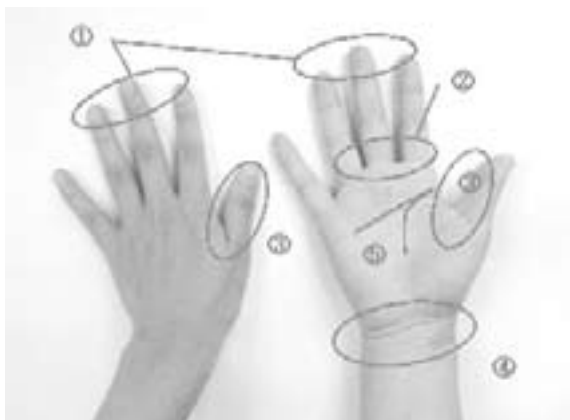
■ 感染症を予防しよう—「かからない、うつさない」ために—

我々の周囲には感染症が多く存在しています。近年では新型インフルエンザ等、生命を脅かす危険なものである感染症も出てきました。

「鼻をかむ」「鼻を手でこする」「くしゃみ・咳を手で覆う」こんな時、ウイルスが手にたくさん付着します。一番多い感染パターンは「手」を介した感染です。よって、感染予防として『手洗い』は大変

保健管理室からのお知らせ

〔洗い残しが起こりやすい部位〕



効果的です。

『手洗い』は誰でもできる感染予防策です。食事前や外出後等には特に『手洗い』を意識して、感染症を予防しましょう。

* 『手洗い』 = 20～30秒間かけて、指と指の間、親指の付け根、指先、手首まで流水で洗い流すようにしましょう。

■ ノロウイルス感染症にも気をつけましょう

ノロウイルスはヒトからヒトへの感染力は極めて強力で、ワクチンもなく特效薬もないので、治療は対処療法に限られます。ノロウイルス感染症は、毎年11月～4月頃には流行しますので、発症防止・感染拡大防止のために、以下の点に注意して下さい。

- ① 流水・石けんによる手洗い（帰宅時、食事前、調理前、配膳前、トイレ後）
- ② 加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱する。特にかきやはまぐり、あさりなどの二枚貝類は十分に加熱する。
- ③ 調理したまな板や包丁は、すぐに洗い熱湯消毒する。

もし、ノロウイルス感染症症状が出たら・・・

嘔吐物・ふん便等の処理

- 使い捨てのマスク・手袋を着用し、嘔吐物やふん便は乾燥しないうちに速やか処理する。
 - 250倍に薄めた塩素系漂白剤を用いて、嘔吐物を浸すように拭き取る。
 - 嘔吐物等で汚れた衣類等の消毒
 - ① 50倍に薄めた塩素系漂白剤を用いて、布等で嘔吐物等を拭き取り、30分以上塩素系漂白剤につけこむ。
 - ② 他の衣類と分けて洗う。
- ★ 症状が消えてからも2週間程ふん便中にウイルスが排出されていますので、手洗いは続けて十分行って下さい。

■ 3回目B型肝炎ワクチン接種・3回ワクチン接種後抗体検査のお知らせ

下記の要領で第3回目B型肝炎ワクチン接種、3回ワクチン接種後抗体検査を実施致します。対象となられる方には案内を個人通知致しますので、受検して下さい。

	第3回目B型肝炎ワクチン接種	3回目ワクチン接種後抗体検査
日 時	平成20年12月3日(水)、4日(木) 15:30～16:30	平成21年1月21日(水)、22日(木) 15:00～16:00
場 所	保健管理室(研究棟1階)	

保健管理室ホームページ <http://www.osaka-med.ac.jp/deps/hcs/>

■しろあと歴史ウォーク&ミニ講演会「高槻まるごと歴史探訪」

大阪医科大学歴史資料館の開設1周年を記念して、本年が開館5周年である高槻市立しろあと歴史館との共催事業を行なうこととなり、下記の通り開催されました。

日 時：平成20年10月11日（土）13：00～17：00

場 所：高槻市立しろあと歴史館、本学別館（歴史資料館）

内 容：「摂津三島の遺宝」展示解説（しろあと歴史館にて）

→高槻城下歴史ウォーク

→大阪医科大学歴史資料館見学とミニ講演会「医大ができたころの高槻」

参加者：約105名



講師：西本幸嗣氏
（高槻市立しろあと歴史館主査 学芸員）

【歴史資料館展示資料恵与者】

平成20年1月1日から9月30日までに1名の方（別表）よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

（敬称略）

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H20.8.25	森田 大	高医第15期生卒業アルバム及び関連写真（父森田大貳：高医 昭和20年卒の遺品）	医学部 昭和47年卒

◆大阪医科大学俳句会（八・九・十月）

棗の実モチリアーニの女の眼

山崎隆司

際限もなく字引引く裸かな

同

なにもする気がおこらないあつすぎる

今井雄介

秋袷知らないことに意見述べ

同

鳳仙花娘はフランスへ留学す

中川一成

言ひ負けて銀杏食みてゐたるかな

同

炎天に宅急便が来て止まる

吉田孝江

庭先のホースで虹を立たせもし

同

近よりし萩のみに来し風に逢ふ

飯塚久子

宿題の兎に忙しなや法師蟬

同

ひっそりと病みひっそりと蟻地獄

美濃 眞

敗戦忌転がつてゐるニト口錠

同

盆踊娘より明るき帯締め

宮脇芳美

百日紅砂場に遊具打ち置かれ

同

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町2-7
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



● 法人公式ホームページのリニューアルについて ●



学校法人大阪医科大学ホームページは、平成10年に正式公開され今年で10年を迎えます。公式ホームページを通し、これまで様々な情報を社会に発信、提供してまいりました。平成13年にホームページ委員会が設置され、旧法人公式ページから新法人公式ホームページ（平成20年8月まで使用）が改訂され、新たに運営規程や公開指針が設けられました。

現代社会において重要な役割をもつ情報ネットワーク社会では、急速なインターネットの普及、モバイル化の発展など大きな変貌をとげております。今や情報の取得手段の一つとして、インターネットの使用は年齢層問わず社会常識となり、ホームページに求められるニーズは、多種多様化して来ています。本学ホームページは、急速な社会の変化に伴い、現代社会のニーズに合わせ、閲覧者がより見やすくする必要がります。

ホームページ委員会では、昨年度より、法人公式ホームページのリニューアルについて種々検討してきました。第1段階といたしまして、平成20年9月1日よりトップページをリニューアルしました。デザインは、これまでと同じく伝統、格式を重んじたデザインとし、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計であり現存する「歴史資料館」（登録有形文化財（第27-0244号））としました。またトップページに配置してあるボタンは、これまでとほぼ変更はございません。以前から受験者や保護者から入試情報がわかりにくいとのご意見やお問い合わせが多かったことから、入試情報に関するボタン（医学部、大学院、看護専門学校）を設けました。更に学生サービスの向上を図る目的で、在学生に関するボタンを新設しました。

今後は、既設、未設の部署に関わらず、全ての部署に対しヒアリングを行い、より一層充実したホームページへのリニューアルを行いたい所存でございます。今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

学校法人大阪医科大学ホームページ委員会
委員長 大槻 勝紀

※学校法人大阪医科大学公式ホームページ
U R L : <http://www.osaka-med.ac.jp/>

●平成20年度 医療事故防止標語決定●

医療の安全確保に対する意識向上のための『平成20年度医療事故防止の標語』を職員より募集し、応募総数173作の中から、厳正かつ公平な検討の結果、下記のとおり各賞が決定しました。

◎理事長賞 ●思い込み ミスへつながる 落とし穴 (54病棟)



◎病院長賞 ●安心感を 与える笑顔は 素敵です (産婦人科外来)



◎医療安全推進部長賞 ●日ごろから 目くばり 気くばり 心がけ (診療情報管理室)



◎佳作 ●整理整頓 しない職場が 事故の元 (薬剤部) (25病棟) (62病棟) (中央検査部) (NICU)

※ 入賞作品については、シール形式にし、外来・病棟・各部署へ貼付しています。

表紙絵：『烏瓜の実』（ウリ科 カラスウリ）

日課にしている犬を連れての散歩の途中、日当たりのよい林のへりに生える樹木に巻ひげ絡ませて垂れ下がっているいくつもの卵形で白色の縦縞がある緑色のものや赤色の実を見つけた。烏瓜である。烏瓜は雌雄別株でつる性の多年草である。花は夏から秋に咲き、夕方純白の細く糸状の花弁を開き、朝方にしぼむ。そのため雄花と雌花を結び付けるのは蝶ではなく蛾であるという何とも不気味な雰囲気を持っている。俳人はこれを幽玄の雰囲気と詠む。実は秋から冬で、葉が枯れて赤い実が残る。その様から名の由来に烏が好んで食べるからとする説と逆に食べ残したとする説がある。(山溪カラー名鑑 日本の野草：林 弥栄著 山と溪谷社 1985 原色牧野植物大図鑑 北隆館 1982参照)

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第78号
発行年月 平成20年11月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総合企画部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/>